

2024

1月18日(木)

19:00 - 20:30

zoomウェビナー

あなたが最期を迎えるなら、 自宅がよいですか？ 病院がよいですか？

～看護がつなく医療と暮らし～

高齢多死時代を迎えた今、これからの在宅看護はどうなるのか。本研究で明らかとなった訪問看護のアクセシビリティを阻害する様々な課題について、訪問看護で働く現場の視点と医療の評論家を交えながら、その課題とこれからの地域医療の再構築についてお話しします。

参加申込:事前登録制/参加無料/Zoomウェビナー一使用

■□■ プログラム □□■

はじめに

訪問看護とは

地域に根差した訪問看護とは その取り組みと課題

研究から見えてきた訪問看護のアクセシビリティの課題

医療ジャーナリストからみた在宅医療・訪問看護

政策提言

ディスカッション

終わりに

お申込みは
↓ こちら ↓



—登壇者—

※敬称略

柴田 三奈子

研究協力者(リサーチコラボレーター)
株式会社ラピオン 代表取締役

前村 聡

日本経済新聞社 社会保障エディター

石原 美和

東京財団政策研究所研究主幹
神奈川県立保健福祉大学 教授

松永 早苗

東京財団政策研究所主席研究員
神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 准教授

登壇者や内容は予告なく変更となる場合がございます。
あらかじめご了承ください。

研究プログラムのご紹介

本研究プログラムでは、既存の文献や政策の文献レビューを行い、アクセシビリティ向上モデルの仮説を立てた。そのうえで、在宅看護サービスへのアクセシビリティ向上に積極的に取り組む病院及び訪問看護ステーションに対するヒアリング、日本財団在宅看護センターに対するアンケート調査を行い、アクセシビリティを阻害する要因及びその要因への方策に基づいて、政策提言を行う。

研究プログラムホームページは
↓ こちら ↓



お問い合わせ

ishiharalabo001@gmail.com

